宮っこ未来ビジョン実現に向けた提言書

「社会総ぐるみによる人づくりの推進」

心をひとつに合わせてみんなで行動しよう

平成２４年１１月

宇都宮の人づくりを考える会議

目　　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

Ⅰ　本市における人づくりの取組等について・・・・・・・・・・・・　２

１　「人づくり」への思い

２　「宮っこ未来ビジョン」について

３　本市の人づくりに関する現状

Ⅱ　市民一人ひとりの意識と行動が変わるために・・・・・・・・・　７

１　取組の方向性

２　具体的方策について

３　実施に向けて

むすびに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

資料編

はじめに

インターネットや携帯電話の普及など，子どもたちを取り巻く環境が大きく変化することによって，「人間関係をうまく築けない」，「心に不安を持っている」，「目標を見失いかけている」など，様々な悩みを抱えている子どもたちが増えています。

このような困難な状況におかれている子どもたちがいたら，私たち大人は，自分の子どもかどうかにかかわらず，見て見ぬふりをすることは決してできないと思いませんか？「どう行動したらいいのか」，「何ができるのか」。私たちは，こんな問題意識をもって，宇都宮の人づくりについて考えてきました。

これまで，宇都宮市では，平成１７年９月に本市独自の人づくり指針「宮っこ未来ビジョン」を策定し，「心豊かでたくましく生きる人」を目指した人づくりに取り組んできました。このような中，これまでに親学や食育の推進，「魅力ある学校づくり協議会」の設置，今年度から全市実施された「小中一貫教育と地域学校園」など，人づくりを推進する様々な施策事業が行われるとともに，地域の中においても，子どもたちの体験活動や世代間交流を促進するお祭りなどの様々な活動が行われています。

また，平成１８年１２月には，日本の教育の基本を定める「教育基本法」に，学校や家庭，地域住民等が教育においてそれぞれの役割と責任を自覚することはもとより，相互の連携協力に努めることが規定されるなど，社会総ぐるみによる人づくりが改めて重要視されています。

こうした取組や社会の動きを踏まえ，悩みがあってもそれを自分で解決できるたくましい宮っこを育てるためには，これからは，市民一人ひとりが日頃より意識的に人づくりに取り組んでいくとともに，家庭や学校，地域，企業，行政が，同じ方向を向いて一丸となって取り組んでいくことが，人づくりの「ポイント」であり，宇都宮市全体で一歩前に踏み出す時期に来ているのではないでしょうか。

こうした状況を踏まえ，「宇都宮の人づくりを考える会議」では，宮っこ未来ビジョンに掲げる目標の実現に向けて，市民運動のような社会総ぐるみによる人づくりの取組を推進するための具体的方策について検討を行い，その結果を提言としてまとめることといたしました。

Ⅰ　本市における人づくりの取組等について

１　「人づくり」への思い

「人づくり」という言葉に対して，人は皆それぞれに思いを持っています。こうした中においても，「宇都宮に住んで良かった」，「宇都宮にずっと住み続けたい」と思いを持ちながら幸せな人生を過ごすことができる社会をつくることは，宇都宮市民にとって共通の思いであり，その実現のために活躍する人材を育成することが何よりも重要です。

人づくりの根底は「心」であり，どんなときにも**「人に対する愛情（思いやり）」**と**「よりよい社会を目指す情熱（社会力※）」**が大切です。また，あいさつやコミュニケーションは，新しいものを創造していくことにつながる全ての資質・能力の基本であり，これからの社会を生き抜くために必要不可欠なものであると思います。

さらに，すべての教育は大人を手本として成り立っていると言われます。人づくりは，時間と労力が非常にかかるものですが，大人が襟を正して行動することが，人づくりを進める上での近道であると考えます。

２　「宮っこ未来ビジョン」について

（１）市民と行政が共有する人づくりの指針

平成１７年９月に，市民と行政が共有する人づくりの指針となる「宮っこ未来ビジョン」が策定されました。宮っこ未来ビジョンでは，基本理念を「心豊かでたくましく生きる人を目指して」とし，「学び」を通した望ましい人づくりを推進するための基本的な考え方や家庭・地域社会・行政の役割，それらの連携の在り方などを示しています。

【宮っこ未来ビジョン（基本的な考え方）】

■　**基本理念**

心豊かでたくましく生きる人を目指して

－心の触れ合う「対話」と未来を切り拓く「創造」を通して－

■　**基本目標**

①　目標の実現に向けて，自らの責任において主体的に行動します。　**【自己実現】**

②　生涯を通じて学び続け，課題解決に努めます。　**【課題解決】**

③　ものづくりを通して，つくる喜びを感じ，技術・文化の伝承や科学の理解に努めます。　**【技術・文化の伝承，科学の理解】**

④　他者を思いやり，様々な人々と協力して，共に生きるよう努めます。　**【思いやり・共生】**

⑤　自国文化や異なる文化を理解し，新しい文化の創造に努めます。　**【文化創造】**

⑥　社会のきまりを守り，協力し合いながら生活できるように努めます。　**【きまり遵守】**

⑦　生涯にわたってスポーツに親しみ，健康や体力の保持・増進に努めます。　**【健康・体力の保持増進】**

※社会力：「人が人とつながり，社会をつくっていく力」という意味の筑波学院大学門脇学長による造語。

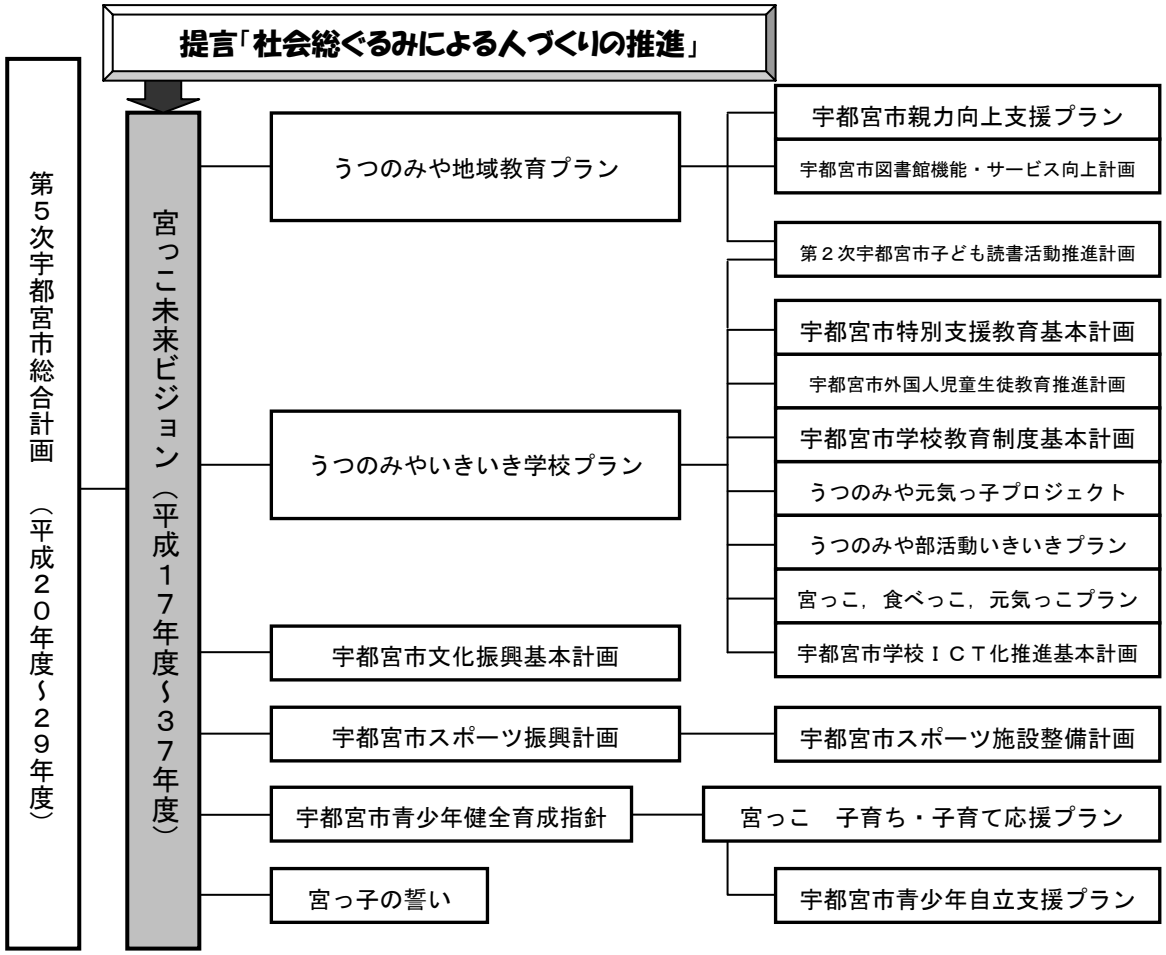
（２）ビジョン実現に向けて

「宮っこ未来ビジョン」策定後は，学校教育や社会教育，文化・スポーツなどの分野において様々な事業が行われ，現在では，地域内における育成活動はもちろん，「魅力ある学校づくり地域協議会」や「宮っ子ステーション」などにおいて市民が人づくりの活動に参加，参画する機会も増えています。

しかし，宮っこ未来ビジョンに掲げる人づくりを進めるにあたっては，学校教育や社会教育などの教育分野や個人，家庭，学校などのそれぞれの立場を超えて，人づくりの基本理念や各ライフステージにおける目標，それぞれの役割を「共有」し，また世代を超えて互いに「対話」して，身近なところから人づくりの取組を行うことが必要不可欠です。

人づくりの根底である心を育むため，市民一人ひとりの日常生活の中に人づくりの意識をしっかり根付かせ，家庭や学校，地域，企業，行政が連携をしながら，社会全体が一つとなって取り組める仕掛けが必要であると考えます。

【宮っこ未来ビジョンの各種計画との位置付け等】



３　本市の人づくりに関する現状

「宇都宮の人づくりに関する市民意識調査（平成２３年９月宇都宮市教育委員会調査）」などの調査結果や各種団体における人づくりの取組事例などを踏まえ，本市の人づくりの現状について次のようにまとめました。

○　人と人とが会話し，家庭や地域，社会の中でつながりを感じられるようになることが，各世代を通じて強く求められている状況にある。

近年，地域コミュニティ意識の低下や連帯感の希薄化が指摘され，本市でも約５割の人が地域の教育力が低下していると考えています。この原因として，個人主義の浸透などがあげられますが，マンションの増加や転入世帯の増加，リーダーの不足などを原因として指摘する人も増加しており，居住環境の変化から近所同士の関係構築が困難になっている状況が伺えます。

このような中，市民意識調査の結果などによると，これからの社会を生き抜くために必要な力として最も多かったものが，これまでの「善悪を正しく判断できる力」や「社会や集団のルールを守る姿勢」から「よりよい人間関係を築く力」へと変化するとともに，すべての年代を通じて約半数以上の人が親しく話ができたり，困ったときには助け合ったりする近所づきあいを希望していることなどから，世代を超えた多くの人が，家庭や地域，社会の中での人と人とのつながりについて課題として認識しているものと思われます。

【市民意識調査結果から抜粋】

○　おおむね６歳から１５歳未満の少年期

- 地域活動への参加状況や近所の大人との関わりが，中学進学を境に急激に低下
  地域活動へいつも（ときどき）参加する割合　小６：76.7%，中２：59.0%
  近所の大人とよく（ときどき）話す割合　　小６：78.5%，中２：59.9%
- 自分が大人になった時は親しく話ができるような近所づきあいを期待
  家族同様の（親しく話しをする）つきあいを希望する割合　全体 83.4%

○　おおむね１５歳から３０歳未満の青年期

- 中学生期を境に年齢が高くなるにつれて地域活動の経験が減少
  何もしたことがない 15～19 歳：53.2%，20～24 歳：67.3%，25～29 歳：63.4%
- ほとんど近所づきあいをしていない人が約４割いるが，全体で約７割の人が今後は困った時には助け合ったり，挨拶を交わしたりする関係を希望

○　おおむね３０歳から６５歳未満の成人期

- 地域とのつながりを持てない大人が増加していることについて，小中学生も含めたすべての世代が問題視

○　地域や行政において様々な取組が行われているが，各主体の横のつながりが少なかったり，世代によって求めるものが異なっていたりなど，全市をあげて目標を共有して取り組んでいるという意識が持てない状況にある。

今，地域やＰＴＡ，学校，行政など，どこでも子どもたちの育成に一生懸命取り組んでいると思われますが，それぞれ個々に頑張っていても，横のつながりが少なく，さらに地域の中では，同じ人があちらこちらの団体に参加し，一人で複数の役割に就いているような状況もあります。

また，人と人とのつながりの希薄化の延長として，世代間のつながりも分離し，世代ごとに孤立感を感じる状況も危惧されます。特に，子育て世代と子育てを終えた世代の家庭教育に求めるものの違いが顕著であるなど，世代によって人づくりに対する考え方が異なっていることが伺えることから，全市をあげて同じ目標を共有して取組んでいるとは言えないと思われます。

さらに，行政では，様々な部署において社会全体で子どもを育むことを目的とした多種多様な事業を実施しておりますが，今後の課題として，一人ひとりの意識高揚や社会全体の機運醸成，人材の掘り起こしや育成を挙げています。

このように，家庭や学校，地域，行政の横のつながりが少なかったり，世代間での人づくりに対する認識が異なっていたりという現状を改善し，目指すものやあるべき姿を一本化して分かりやすくするなど，目標を共有することができれば，相当の力を発揮できると考えます。

【世代間で家庭教育等に求めるものの違い】

<table>
<tr><th></th><th>家庭教育</th><th>地域活動</th><th>企業活動</th></tr>
<tr><td>これから子育てする世代</td><td rowspan="2">・親の勤務時間の短縮や休暇の増加が有効</td><td>・地域活動への参加のきっかけが得られず</td><td rowspan="2">・従業員に対する職場環境（休暇制度や労働時間等）を整備すべき</td></tr>
<tr><td>子育て世代</td><td>・地域活動への参加意欲は高いが，仕事や自分のことなどで時間に余裕なし</td></tr>
<tr><td>子育てを終えた世代</td><td>・家庭教育の親自身の学びの機会の提供が有効
・困ったときに助言する相談機会の提供が有効</td><td>・地域活動への参加のきっかけが得られず</td><td>・社会体験活動などへ協力すべき</td></tr>
</table>

（宇都宮の人づくりに関する市民意識調査（H23.9））

○　子どもたちを育成するために，社会総ぐるみで取り組まなければならない状況にある。

子どもたちの育成において，第一義的責任を有する家庭の教育力の向上は不可欠ですが，昔から多くの地域で行われていた様々な体験活動や多様な人間関係が担ってきた教育的役割も忘れてはいけません。また，携帯電話，インターネットなど，社会の変化などから生じる新たな課題への対応も必要です。

このような中，家庭については，親学出前講座などの取組によって，「親学」という言葉が保護者に浸透し，親としての責任の重さなど，保護者の意識も着実に高まってきている一方で，未だ子どものしつけを学校に任せきりといった保護者も見受けられることから，引き続き，家庭の教育力の向上に努めなければなりません。

そのためには，親に対する学習機会の提供，子どもへの体験活動機会の提供はもちろんですが，親の相談機会の充実や労働時間の縮減など，親が子どもと向き合う時間と心を支えることが非常に重要となっています。

また，地域においては，子どもたちのための活動への参加状況について，積極的またはときどき活動している人が全体の２割半ばであり，子育て世代に限ると約３～４割が活動しています。しかしながら，子どもの卒業と同時に地域活動から退いたり，忙しいという理由で地域活動に参加しない人も多い状況にあり，今後の地域活動の担い手不足や活動量の減少が懸念されます。

父親の家庭での教育や地域活動への参加についても，依然として十分な活動ができているとは言えず，労働時間の縮減など，引き続き企業の理解や協力が不可欠であります。

さらに，子どもの忍耐力の欠如や道徳心の不足，集団行動や人間関係の未熟さがよく指摘されていますが，それは大人力の不足，特に大人のモラルの低さも原因であると考えられ，地域の大人としてできることを考えていく必要があります。

未来を担う子どもたちの教育環境をより良くしていくため，家庭はもちろんでありますが，社会全体で動かなければなりません。

【市民意識調査結果から抜粋】

○　子どもの健全育成のために地域が力を入れるべきこと

大人自身のマナーやモラルを向上させる	50.7%
子どもに礼儀やしつけをしっかりと教える	35.3%

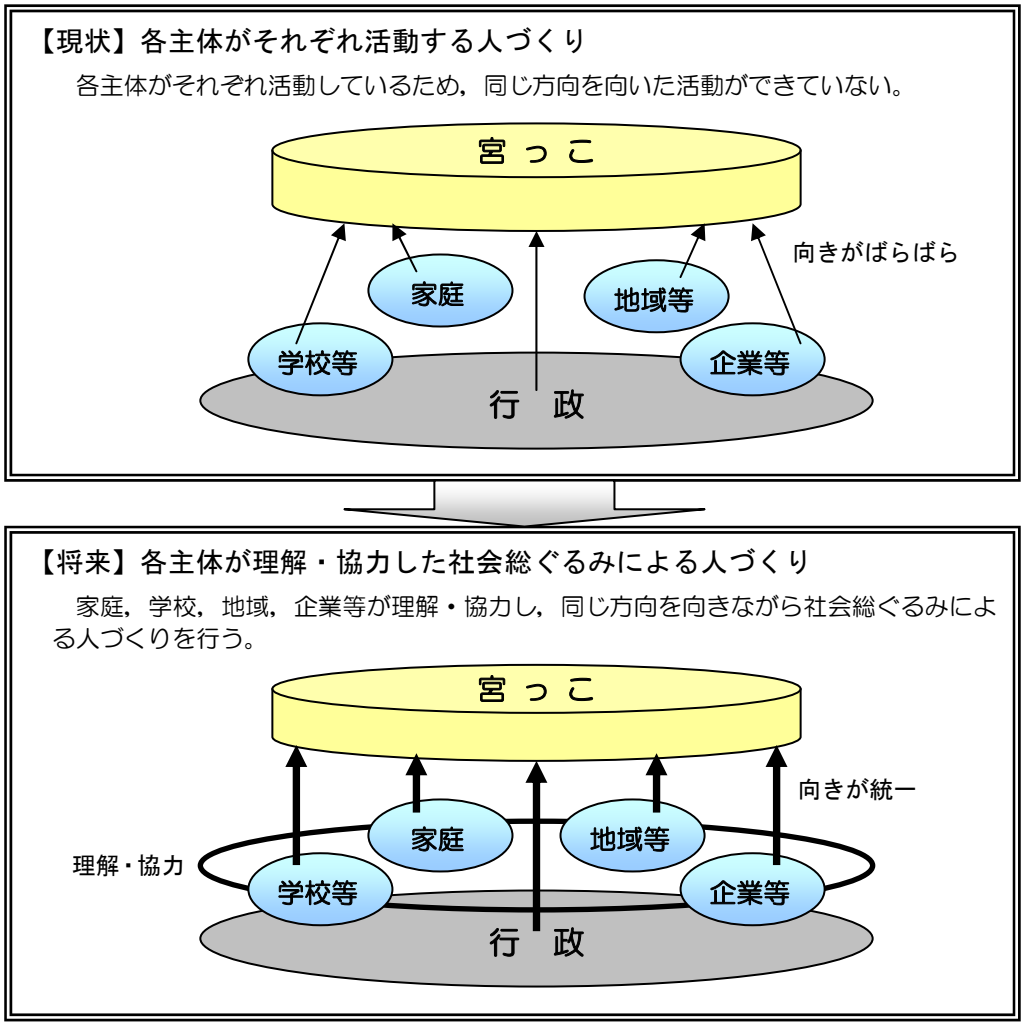
Ⅱ　市民一人ひとりの意識と行動が変わるために

1　取組の方向性

社会総ぐるみによる人づくりを推進するためには，これまで行政が中心となって取り組んできた，青少年や家庭，企業等に対する意識や能力，行動等の育成・向上を図る直接的な取組や支援についても引き続き充実していくことも必要ですが，より一層の人づくりの推進を図るためには，われわれ大人一人ひとりが，子どもの模範たるべき大人として，未来を生きる子どもたちを育てるという責任を自覚し，日常的な小さな事から人づくりの行動につなげていかなければなりません。

そこで，家庭，地域，学校，企業などの活動主体や子ども，親，高齢者などの世代の違いを超えて，理解・協力し合うことにより，一人ひとりの意識や行動を変革し，日常生活の中で人づくりの意識を着実に根付かせ，社会総ぐるみで人づくりを推進することができるよう，次の方策を提案します。

【取組の方向性（イメージ）】



２　具体的方策について

①　市民全体で心を一つに合わせて取り組もう

人づくりビジョンは，本市の人づくりの大きな目標ではありますが，社会総ぐるみで人づくりに取り組んでいくためには，まちづくりや学校教育，家庭や学校，地域などの区分けをせずに，みんなが一体化できる目標を設定することが有効であると思います。また，人は楽しいと感じられると継続する力が生まれます。

子どもから大人まで全ての人が分かるような，簡単でインパクトのある言葉，宇都宮のよさを訴えられる言葉，楽しさや希望が感じられる言葉などで，大人が宮っ子の誓いの模範を示すための目標や，餃子日本一・あいさつ日本一といったスローガン，合言葉などをつくり，市民一人ひとりの具体的な取組につなげることで，みんなで取り組んでいるという意識も高まるものと思います。さらには，家庭や学校，地域の団体などの様々な活動主体が，同じ方向を向き，一体となって人づくりに取り組む上でも，非常に効果的であると思います。

また，手法の一つとして，条例の制定についても検討しましたが，人づくりを推進する上では，まずは身近なところから具体的な行動に移すことが効果的です。一定の強制力があり，作りあげるまでに多くの意見を集約し，十分議論を重ねる必要がある条例については，市全体の機運が高まってきたときに検討するとよいと考えます。

〔一体感を醸成するその他の取組例〕

・「こども週間」や「〇〇月間」などを設定する
・「こども会議」などを通した，子どもの視点を取り入れる
・栃木県が制定した「とちぎの子ども育成憲章」を活用する

②　横のつながりを深め，活動を広めよう

１つ１つは小さな活動でも，その活動を多くの人が知っていたり，お互いに協力しあったりすることによって，人づくりの取組は点から面へと広がり，大きな力となります。宇都宮市において人づくりの大きなうねりを作り出すためには，学校や地域，企業，行政でそれぞれに行われている様々な取組のネットワーク化を図り，共有化した方向性にもとに継続的に人づくりの取組が行われるよう推進していく市民組織や，地域での素晴らしい活動を共通理解し，市全体に広めていく仕組みが必要であると考えます。

市民組織については，当「宇都宮の人づくりを考える会議」などの既存の組織を活用するとともに，実際の活動は地域単位，共通認識を深める活動は市全体で行うなど，活動体として機能するような体制を構築すべきと考えます。

また，地域の活動やそこでがんばっている大人の姿を紹介する広報紙の発行や，実践を共有できる活動発表の場の創出，宮っ子の誓いや市民憲章の徹底した周知など，市民にもっと知ってもらえるよう，市民に対する発信力を強化する必要があると思います。

〔横のつながりを意識した取組例〕

・地域コミュニティセンター等を活用して「イクメン」を集め，親世代を地域に取り込む
・高齢者世代による「応援団」が学校や地域で活躍する
・各種の地域活動の調整やつなげる役割を担う「地域コーディネーター」を設置する

③　みんなで子どもの夢を育める環境（社会）をつくろう

未来を担う子どもたちの育成は何より大切なことであり，子どもたちが達成感を感じたり，地域の異年齢・異世代の人々との交流の中から楽しさや喜びを感じたりするような経験が重要です。また，目標を見失いかけた子どもたちには，もう一度立ち上がれる機会を作ってあげることが大切です。

子どもたちの教育は，本来，家庭が基本であり，家庭が自立していくことが不可欠ですが，地域や企業にも，それぞれの持つ能力や資本を活用して，子どもたちの育成のためにできることがあります。

心豊かでたくましい子どもを育成する上での問題や課題について，みんなで考え，それぞれの立場でできる役割を担っていく必要があります。

〔取組例〕

・親と一緒に授業を受けたり，子どもによる親の職場参観を実施する
・現在課題となっている携帯電話やインターネットへの対応について考える
・栃木県ＰＴＡ連合会が策定した「いい親の日」宣言を活用する
・子どもが良いことをしたらポイントがたまるご褒美制度や子ほめ（表彰）制度を実施する
・子どもが楽しさや達成感を味わえるイベントを実施する

３　実施に向けて

人づくりは，身近な取組から時間をかけて行うものであり，何から実際に取り組むことができるか，またいかに継続して広めることができるかが鍵となります。そのためには，多くの市民の関心や共感が得られるよう，人づくりの目標や活動方針などについては，市民に分かりやすい言葉で示すなど，市民に受け入れやすくすることが重要です。

このため，まずは既存の組織を活用して，これまでの取組を生かした人づくりを行うことが重要です。具体的には，市内全小中学校で活発に活動している「魅力ある学校づくり地域協議会」などの団体や取組を有効活用し，これらの事例を市民に広く知らせることによってより多くの賛同や協力を得たり，団体間相互に情報交換を行うことにより活動の幅を広げるなどの効果が期待できます。

また，全市統一の取組を強要するのではなく，各主体が主体的に人づくりの方策を選択し，実践することにより，地域ごとに特色のある活動の実現が期待できます。

もちろん，これまでどおり，行政が取り組むべきことは引き続き実施した上で，適切な役割分担のもと，これらの取組を着実に推進できる仕組みを作り，最終的には，市民全体で心を一つに合わせた活動がなされるよう，機運を盛り上げていくとよいと考えます。

むすびに

本会議は，平成２３年８月から平成２４年１１月まで計６回開催し，社会総ぐるみによる人づくりを推進するための具体的方策について検討を行い，提言書としてまとめました。

本提言書では，保護者や学校，地域住民，事業者などすべての大人が共に手を携え，小さなことからでも一歩ずつ前へ着実に進んでいくため，必要と考えた具体的な推進方策について提案しました。

人づくりの根底は「心」であり，どんなときにも「人に対する愛情（思いやり）」と「よりよい社会を目指す情熱（社会力）」が大切です。こうした「思いやり」や「社会力」を育み，子どもからお年寄りまでが，宇都宮市に愛着と誇りを感じながら，生涯を心豊かにたくましく生きることができる人づくりを実現するためには，今，私たち大人は何ができるのか，一人ひとりが真剣に考え，実行する時期に来ています。

この提言をきっかけに，市民一人ひとりが心を合わせ，「宇都宮に住んで良かった」，「宇都宮にずっと住み続けたい」という思いを持って幸せな人生を過ごせる社会をつくる人づくりが取り組まれることを願います。